

ロシア経済への経済制裁の影響レポート（2022年6月20日）

田畑伸一郎

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター

本レポートは、現時点（6月20日）におけるロシア経済への経済制裁の影響を分析したものである。可能なところでは、今後の見通しについても記している。

1. GDP

1-3月のGDPは対前年同期比で3.5%の増加となった（図表1）。1-3月においては、2021年の好調な状況がまだ継続しているように見える。産業部門別では、鉱業、製造業、建設業、運輸・倉庫業などの基幹部門で高い成長率となっている。ただし、これらの部門の多くは、2021年第1四半期の実績が悪かったため、そのために、見かけ上、成長率が高めに出ているという側面もある。ロシアの経済発展省と中銀、IMF、世界銀行などによる2022年のロシア経済成長の予測は、概ねマイナス8~10%程度となっている。

2. 鉱工業生産

1-4月の鉱工業生産は対前年同期比3.9%の増加であったが、4月の対前年同月比では1.6%の減少となっており、経済制裁の影響が出始めている（図表2）。4月についての内訳は、鉱業が対前年同月比1.6%減、製造業が同2.1%減であった。鉱業部門の4月の生産量を見ると、天然ガスが同6.6%減、原油が同4.1%減、石炭が同2.2%減となったが、LNGは同8.6%増であった。製造業の各部門の4月の生産高は、自動車と同61.5%減、電気機械が同8.2%減であり、西側企業がロシアから撤退したことの影響が大きく出てきている。この他、石油製品・コークスが同10.0%減、その他輸送機器が同6.6%減、化学品が6.1%減、食品が2.0%減などとなっている。西側によるハイテク部品などの輸出禁止措置の影響も今後出てくると考えられる。

3. 貿易

ロシア税関庁は、4月から貿易に関わる統計の発表を行っておらず、同庁のサイトに入れない状態が続いている。中央銀行も4月以降、詳しい国際収支表を発表していない。このため、現時点で得られる貿易・国際収支表に関する情報は図表3に示したものにほぼ限られる。1-3月で見ると、輸出が著増しており、それによって貿易・サービス収支と経常収支の黒字が前年同期と比べて大幅に増えていることが分かる。輸出の増加は、主として石油・ガ

スの価格高騰によるものである。この傾向は4月、5月も継続しており、1-5月の貿易・サービス収支と経常収支の黒字も前年同期と比べて3倍くらいの大きさになっている。ただし、4月と比べると5月には黒字額が半分以下になっていることも注目される。貿易・サービス収支と経常収支の増加傾向が今後も続くかどうかは、石油・ガスの輸出次第である。

4. 為替レート

ルーブルの為替レートは、2022年2月末から3月末にかけて急落した(図表4)。2月11日の1ドル=74.7ルーブルから、3月11日には同120.4ルーブルにまで38%も下落した。しかし、その後急速にルーブルは増価し、4月9日頃までにはウクライナ侵攻前の水準にまで戻した。

この回復に寄与した大きな要因としては、輸出企業に外貨獲得額の80%を売却する義務を課すという措置を導入したことが挙げられる(2月28日付大統領令第79号)。石油・ガス等の輸出が続いており、石油・ガス価格が高騰しているため、為替市場には外貨が潤沢に流入している。

5月26日にはルーブルの対ドルレートは、1ドル=56.3ルーブルまで上がっており、これは2018年2月頃の水準である。高いインフレ率を考慮すると、実質ではルーブルがかなり強くなったことを意味する。こうした事情も考慮して、外貨の義務的売却は5月23日に外貨獲得額の80%から50%に引下げられている(5月23日付大統領令第303号)。石油・ガス等の輸出が続く限り、ルーブルの暴落が再び起こるとは考えにくい。

5. 外貨準備

ロシアの外貨準備は、2021年に6,300億ドルを超えて史上最高を更新した(図表5)。中国、日本、スイスに次ぐ世界第4位の水準である。2022年においては、2月18日の6,432億ドルをピークとして減少しており、年初から5月初めまでに376億ドル減少した。

中銀は、2015年8月以降、公式には為替市場への介入を行っていないことになっていたが、2月24日に為替市場への介入を始めると発表した。このデータについては中銀のサイトに掲載されており(https://www.cbr.ru/hd_base/valintbr/)、それによると、2月25日と28日に介入が行われ、介入合計額は12億ドルであった。

中銀は3月から外貨準備の内訳などに関するデータを公表しなくなったが、2月以降の外貨準備の減少は、外貨準備の一部となっている国民福祉基金の減少によるところが大きいと考えられる。図表5から分かるように、外貨準備と国民福祉基金の減少が同じような大きさとなっている(年初から5月初めまでの同基金の減少額は277億ドル)。同基金の減少は、同基金の保有するズベルバンクやアエロフロートの株価の下落による含み損であると見られる。

6. インフレ

インフレ率は2022年2月までは昨年と同程度の水準であったが（2021年のインフレ率は8.4%）、3月に急に跳ね上がった。対前年同月比で見ると、2月は9.2%であったが、3月は16.7%、4月は17.8%、5月は17.1%であった（図表6）。対前月比で見ると、3月に7.6%の異常な上昇であった（図表7）。特に顕著なのは非食品価格の上昇で、3月に11.3%の上昇を記録した。この上昇は、ロシア人が制裁の実施に反応し、今後のことを考えてパニック的に買い物をしたことによると考えられる。同時期にルーブル安が生じたために輸入品の価格が上昇したことも、インフレに貢献した。

このような3月の急上昇に対して、対前月比で見ると4月にはインフレ率は1.6%に下がり、5月には0.12%となった。非食品は5月にはマイナス0.09%であった。3月のインフレ率急上昇は一過性のものであったと考えられる。

しかし、3月に急激な上昇があったため、今後、各月の価格上昇率が昨年の上昇率と同じであると仮定しても、2022年の年間のインフレ率は17%という高さになる。

7. 財政

4月以降、ロシア財務省と連邦出納庁は、連邦財政の実績を公表しなくなった。図表8に示した連邦財政の1-4月の実績は、ロシア財務省のシンクタンクであるEconomic Expert Group (EEG) の出版物に掲載されたデータから作成したものである。

それによると、歳入は34.0%の増加となっている。これは石油・ガス収入が著しく増えたことによる。ロシア財務省は、5月の時点で石油・ガス収入の内訳に関する1-4月のデータを公表した（図表9。現在は財務省のサイトにアクセスできない）。石油・ガス収入の大半は、採掘税と輸出関税である。2022年1-4月の数値を前年同期と比べると、石油・ガス収入の総額は1.9倍、採掘税と輸出関税は2倍以上に増えている。増加の原因は、第1に、石油・ガス価格の上昇である。第2に、1-4月においては、西側はロシアからの石油・ガスの輸入をそれほど削減していなかったことである。石油・ガス収入は、図表8では、「自然資源利用税・納付金等」や「対外経済活動収入」に含まれており、これらの収入は大幅に増加している。付加価値税は対前年同期比5.0%の増加となっているが、インフレ率が20%近いことを考慮すると、実質では大幅に減少していることになる。

1-4月の実績では、前年同期と比べて歳入の増加が歳出の増加を上回っており、財政黒字も3倍以上に増加している（図表8）。ただし、4月だけの実績を見ると、国防費などが大幅に増加して歳出が増え、財政赤字となっている。1-4月の実績でも国防費は対前年同期比46.2%の増加となっている。2022年全体では財政赤字となる見込みであるが、その大きさは今後の石油・ガス収入がどうなるかによっている。

ロシアでは、財政赤字になった場合、国債で補填するよりも、政府系ファンドである国民福祉基金を取り崩して補填することが多かった。同基金は、油価が高いときに石油・ガス収入の一部を積み立てて形成されているが、油価が低いときに財政赤字を補填することが第1の役割となっている。同基金の推移は図表5に示したとおりであり、2019年以降積み増されてきたが、2022年に入って少し減少している。財務省やEEGの資料によれば、今年1-4月には同基金からの支出はほとんどなく、この減少は、同基金が保有するズベルバンクやアエロフロートの株の含み損であると考えられる。

図表1 ロシア GDP の産業部門別増加率（四半期別）

	(対前年同期比 %)				2022 Q1
	2021				
	Q1	Q2	Q3	Q4	
GDP(市場価格)	-0.3	10.5	4.0	5.0	3.5
農林水産業	-0.8	-0.6	-5.6	4.7	1.5
鉱業	-7.4	7.3	8.2	9.7	8.6
製造業	0.1	10.2	3.1	4.6	5.1
建設業	2.6	10.4	3.3	6.1	4.7
卸売・小売業	1.7	21.2	5.6	5.7	3.7
運輸・倉庫業	-2.4	20.0	8.2	6.4	5.4
金融・保険業	6.9	12.7	7.5	5.3	6.6
不動産業	-0.3	2.5	0.8	0.7	0.2
専門・科学・技術サービス業	-1.4	6.5	5.5	7.3	4.8
公務・国防・社会保障	0.5	0.5	1.0	2.5	0.9
教育	-0.8	1.3	0.9	0.5	0.0
保健衛生・社会事業	-0.6	4.9	0.4	0.4	0.0

(出所)ロシア統計局ウェブサイトから作成。

図表2 ロシアの鉱工業生産

鉱工業生産高(対前年同期比 %)

	2022年	
	4月	1-4月
鉱工業	-1.6	3.9
鉱業	-1.6	5.9
製造業	-2.1	3.2
食品	-2.0	1.9
石油製品・コークス	-10.0	-0.2
化学品	-6.1	1.0
医薬品	31.9	28.2
ゴム・プラスチック製品	-0.9	5.3
その他非金属鉱物製品	4.8	10.1
冶金	2.9	3.1
金属製品	5.9	12.1
電子計算機・電子・光学機器	20.3	14.4
電気機械	-8.2	-2.6
一般機械・設備	12.6	17.4
自動車	-61.5	-27.6
その他輸送機器	-6.6	-3.1

(出所)ロシア統計局ウェブサイトから作成。

鉱業生産量(対前年同期比 %)

	2022年	
	4月	1-4月
原油	-4.1	4.9
天然ガス	-6.6	-1.8
LNG	8.6	10.5
石炭	-2.2	-0.3

図表3 ロシアの国際収支表

(単位 10億ドル)

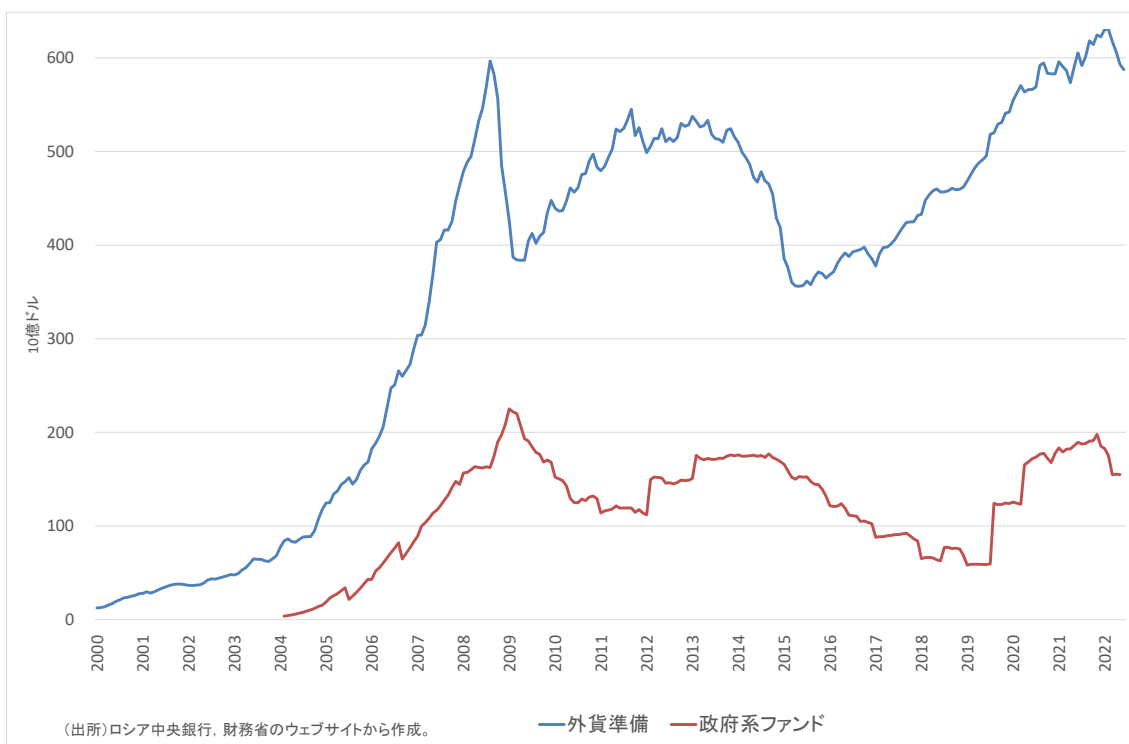
	2021年				2022年			
	1-3月	4月	5月	1-5月	1-3月	4月	5月	1-5月
経常収支	22.5	5.1	4.5	32.1	58.2	37.6	14.5	110.3
貿易・サービス収支	25.8	9.4	9.4	44.5	66.3	40.2	17.8	124.3
輸出	104.8				156.7			
輸入	79.0				90.4			
第1次・第2次所得収支	-3.3	-4.3	-4.8	-12.4	-8.1	-2.6	-3.3	-14.0
受取	16.6				22.5			
支払	19.8				30.6			
資本収支	0.2				0.0			
金融収支	22.7				58.0			
誤差脱漏	0.0				-0.3			

(出所)中央銀行ウェブサイトから作成。

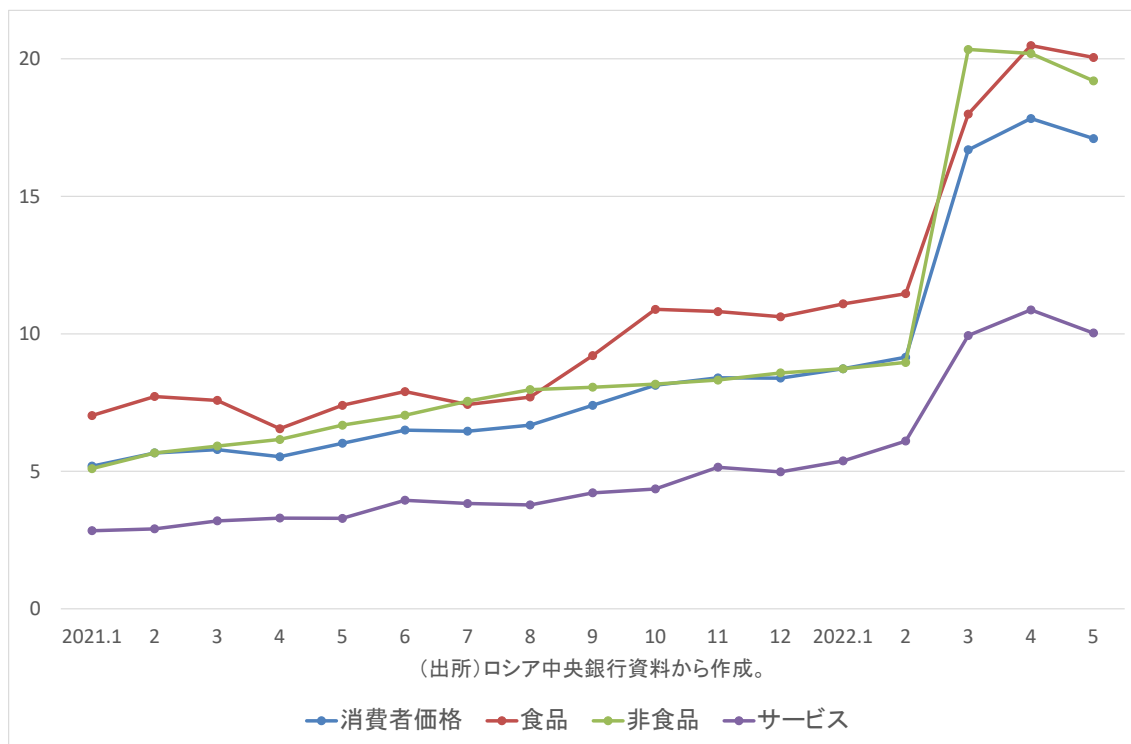
図表4 ルーブルの対ドル公定レート



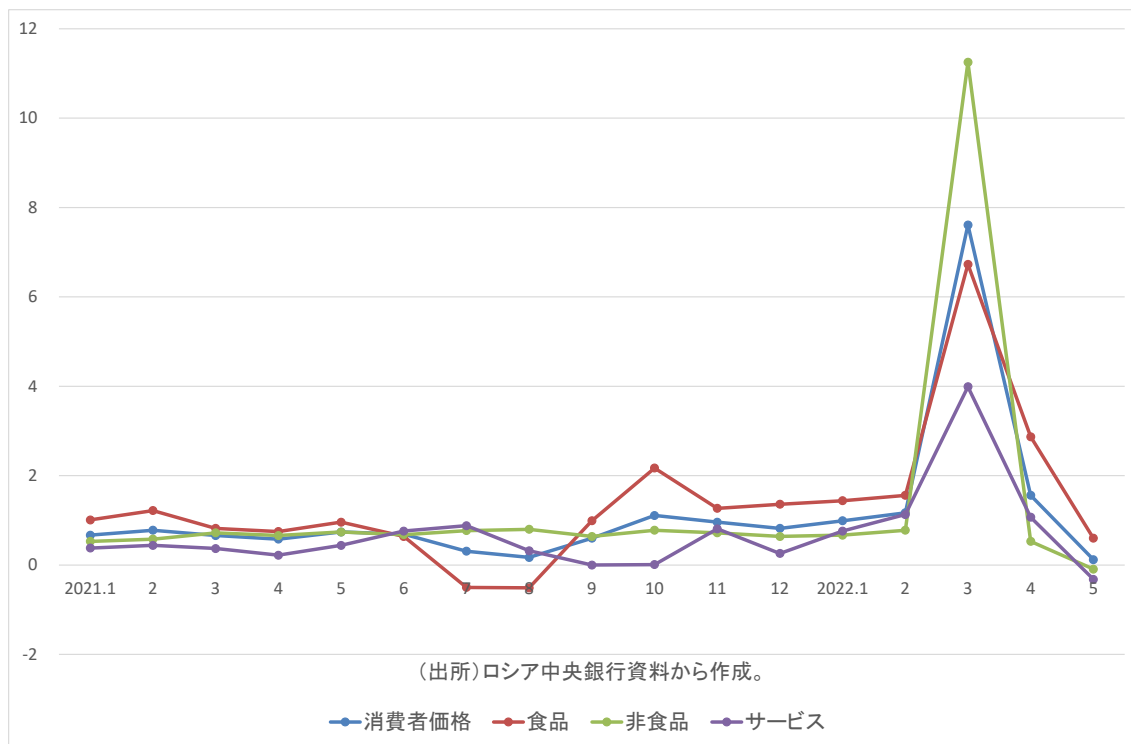
図表5 ロシアの外貨準備と政府系ファンド



図表6 ロシアのインフレの推移（対前年同月比 %）



図表7 ロシアのインフレの推移（対前月比 %）



図表8 ロシアの連邦財政

(単位 10億ルーブル)

	2021年1-4月		2022年1-4月			
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	増加額	増加率(%)
歳入総額	7,486.8	100.0	10,034.0	100.0	2,547.2	34.0
法人税	449.7	6.0	695.0	6.9	245.3	54.5
付加価値税	2,950.1	39.4	3,097.0	30.9	146.9	5.0
物品税	241.4	3.2	▲ 822.6	▲ 8.2	▲ 1,064.0	
自然資源利用税・納付金等	2,224.5	29.7	5,029.8	50.1	2,805.3	126.1
対外経済活動収入	841.5	11.2	1,498.1	14.9	656.6	78.0
公有資産収入	80.0	1.1	59.3	0.6	▲ 20.7	▲ 25.9
その他(計算値)	699.6	9.3	477.4	4.8	▲ 222.2	▲ 31.8
歳出総額	7,157.0	100.0	8,993.0	100.0	1,836.0	25.7
国家的事業	528.0	7.4	607.0	6.7	79.0	15.0
国防	1,150.0	16.1	1,681.0	18.7	531.0	46.2
安全保障・治安	654.4	9.1	695.0	7.7	40.6	6.2
国民経済	642.4	9.0	893.0	9.9	250.6	39.0
住宅・公営事業	215.4	3.0	261.0	2.9	45.6	21.2
社会・文化措置	3,107.2	43.4	3,821.0	42.5	713.8	23.0
教育	430.9	6.0	517.0	5.7	86.1	20.0
文化・マスコミ	65.4	0.9	102.0	1.1	36.6	56.0
保健・スポーツ	452.8	6.3	639.0	7.1	186.2	41.1
社会政策	2,158.1	30.2	2,563.0	28.5	404.9	18.8
国家・地方自治体債務利払	351.9	4.9	485.0	5.4	133.1	37.8
地域財政への移転	360.4	5.0	381.0	4.2	20.6	5.7
その他(計算値)	147.3	2.1	169.0	1.9	21.7	14.7
財政黒字	329.8	...	1,041.0	...	711.2	215.6

(出所)連邦出納庁ウェブサイト, EEG資料から作成。

図表9 ロシアの石油・ガス収入

	2021					2022									
	10億ルーブル					10億ルーブル					対前年同期比増加率(%)				
	1月	2月	3月	4月	1-4月	1月	2月	3月	4月	1-4月	1月	2月	3月	4月	1-4月
総額	490.8	544.9	582.5	889.8	2,508.0	794.5	971.7	1,208.1	1,797.7	4,772.0	61.9	78.3	107.4	102.0	90.3
採掘税	382.0	454.5	470.6	557.5	1,864.6	717.2	927.5	953.1	1,269.6	3,867.4	87.7	104.1	102.5	127.7	107.4
原油	324.2	391.4	409.3	487.9	1,612.8	634.6	829.8	858.0	1,152.5	3,474.9	95.7	112.0	109.6	136.2	115.5
天然ガス	44.0	46.1	44.3	49.7	184.1	58.3	64.8	60.5	70.5	254.1	32.5	40.6	36.6	41.9	38.0
ガスコンデンサート	13.8	17.0	16.9	19.9	67.6	24.3	32.9	34.6	46.6	138.4	76.1	93.5	104.7	134.2	104.7
輸出関税	118.8	122.1	132.4	146.6	519.9	223.2	272.0	306.5	348.2	1,149.9	87.9	122.8	131.5	137.5	121.2
原油	35.5	33.2	47.3	57.3	173.3	52.8	37.4	88.1	84.7	263.0	48.7	12.7	86.3	47.8	51.8
天然ガス	66.7	68.4	54.3	53.9	243.3	142.6	209.9	171.5	234.3	758.3	113.8	206.9	215.8	334.7	211.7
石油製品	16.7	20.6	30.8	35.3	103.4	27.8	24.8	46.9	29.2	128.7	66.5	20.4	52.3	-17.3	24.5
炭化水素原料採掘追加所得税	-22.6	-34.4	-46.9	-42.1	-146.0	-54.6	-100.0	-112.1	-119.8	-386.5	141.6	190.7	139.0	184.6	164.7
石油原料物品税	0.0	-0.2	43.1	267.7	310.6	0.4	-2.4	225.9	765.9	989.8	424.1	186.1	218.7

(出所)ロシア財務省ウェブサイトから作成。